

公益社団法人日本クラフトデザイン協会

事業評価委員会 議事録（学術・文化の振興のための活動）

日 時：平成29年3月 11日（土） 14:00～17:00

※第2回定例理事会の議題として審議された

場 所：日本クラフトデザイン協会事務局 （東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-15-408）

出席者：（理事）岡本昌子 磯谷晴弘 水野誠子 相川繁隆 海野えり子 菅野靖

西川雅典 采墨真澄

（監事）露木清勝 堀内雅博

●事業の報告について

- ・担当理事から事業について報告がなされた。

第56回日本クラフト展 暮らし心地

会期：平成29年1月7日（土）～15日（日） 9日間

11時～19時（最終日17時）

会場：東京ミッドタウン・デザインハブ

（東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー5F）

賞：経済産業大臣賞・日本クラフト大賞1点・優秀賞1点・毎日新聞社賞1点

招待審査員賞2点・U35賞1点・学生賞1点・奨励賞7点

併催：受賞者インタビュー 平成29年1月10日

素材別作品解説 会期中7回

応募数：479人 1324点

入選・展示数：301人 773点

入場者数：8759人（9日間）

以下、各項目の担当理事からの報告と評価委員の意見等

●実施会場について

- ・東京ミッドタウン・デザインハブで4回目の開催となった。年ごとに定着感が増している。デザインハブで開催されるイベントの中では今年度も1・2位を争う入場者数であることも会場担当者から伝えられている。

●実施体制について

- ・実行委員会を組織し準備等を行った。事業規模が大きく委員以外の会員の協力も多数得ての実施であった。地方在住会員も多かったがメール等で情報交換を行った。～協会全体が一丸となって取り組めたことは大変評価できる。今後もテーマ設定等の段階から積極的に意見収集等を行うよう努めてほしい。

●応募状況について

- ・前年度より僅かに減少した。
しかしながら応募された作品は質の高い作品が多かった。
- ・公募展の魅力や意義を分かりやすく伝えていく必要がある
また、応募要項等送付先の再検証をすべきである。いままで周知が行き届いていない地方には、全国にいる会員の情報をもっと効果的に使った方が良い。

●展示について

- ・前年度に引き続きコストを出来るだけ抑え、質を保つ工夫を行った。可能な限り使い捨ての部材は無くし、リユース可能な什器を利用した。受賞作品を会場の入り口から見やすい場所に展示した。

●会期中イベント

- ・日本クラフト展会場と隣接するインターナショナル・デザイン・リエゾンセンターで受賞者インタビューや会員による素材別解説など、本展や作品について理解を深めてもらうイベントの他、チャリティーマーケットやセミナー・ワークショップも開催した。来場者には大変好評で、作品展を見るだけでなく、クラフト作品の使い心地を肌で感じてもらえるような、また素材の魅力を感じてもらえるようなイベントとなった。

●事業目的の達成について

応募者数、入場者数共に目標の数字への達成は果たせなかったが、若い世代の応募者の増加、また地域産業振興を目的にしたプロジェクトからの応募が複数あり、今後につながる内容であった。

クラフトの考え方は幅広く、時代とともに変化するもの、しないもの等様々であり、そうした幅広い魅力を効果的に伝える工夫が今後必要である。

今年度も会期直前にミッドタウンの会報誌にチラシ封入が出来、約2万件に情報周知した。その効果もあり、日毎の入場者数は昨年度より多くなった。今後もこうした協力を要望して事業を根付かせていくことが望ましい。

2回目となる自転車をテーマにした会員によるリレー展示を開催した。モノ作りという点での共通性、また自転車のある暮らしの提案等、今後も継続しながら展開していく。数年後、展示内容を振り返り更に次のステップを踏めるように、次年度も準備が必要である。

平成29年度には韓国 清州国際工芸ビエンナーレでの出展が決まっている。出品作家は日本クラフト展出品者を中心に選定している。本事業が起点となって、今後も様々な方法でクラフトの魅力を広め伝えること、またそうした事業を通じて日本のクラフトが更に向上していくよう、今後も継続した活動が必要である。

以上